

新刊紹介

創価教育研究所編

『池田思想研究への道』

浅井 学

創価学会インターナショナル(SGI)池田大作会長は、宗教家としてだけでなく、国際的に著名な社会活動家として、その業績は多岐にわたる。その池田SGI会長を研究対象とするのが「池田思想研究」である。

一般に、生存中の人物は研究対象とはなりにくい。しかし、過去50年間における国際社会での明らかな貢献から、すでに中国のいくつかの大学だけでなく、インドやアルゼンチンでも池田思想研究が始まっている。

このような熱意ある研究者から創価教育研究所に対する期待は大きいものがあり、本書はその要望に応える第一歩と言える。同時に、学生・社会人向けの入門書となっている。

本書では、まず創価教育研究所における「池田思想研究」への取り組みが紹介されている。平易な語り口の中に、多角的な視野から鋭く本質をつかむ文章がちりばめられていて、読み進めるうちに引き込まれていくのを感じるだろう。

続いて、池田SGI会長の「人間主義」観に基づいた行動を、2つの対談集『二十世紀の精神の教訓』(ゴルバチョフ元ソ連大統領との対談)および『二十一世紀への警鐘』(ペッチェイ元ローマ・クラブ会長との対談)から読み解いている。特に、ペッチェイ氏との対談では、氏の提唱する「人間性革命」と池田SGI会長の「人間革命」を対比させて、共通点と相違点を考察している部分が興味深い。

最後に、創価教育研究所による池田研究の具体的な取り組みが紹介されている。池田SGI会長の書籍を中国語に翻訳している教授へのインタビューなど、貴重な証言・エピソードが紹介されている。

創価大学の学生たちにとって、創立者の「人間主義」思想を学ぶ上で、本書は最適な教科書と言えるだろう。

個人的な関心で恐縮だが、今後の池田思想研究のテーマとして、池田SGI会長のキューバにおける人間主義外交もその一つとして挙げられるだろう。東西冷戦が終結し、共産主義国家としてキューバの孤立化が危惧された1996年、池田SGI会長はキューバのカストロ議長と会見している。事実だけを書けば、会見から数週間後、キューバへのアメリカの経済制裁強化法は凍結されている。創価教育研究所による、さらなる調査を期待したい。

ともあれ本書は、益々発展する池田思想研究の、大きな道筋を指し示している。本書は、池田思想研究を志すものにとって、得がたい友となるであろう。